

今号の作業

ピリオンステップ(左)を取り付ける



今号では、モデルの左側面後方にタンデムシート用の「ピリオンステップ」を取り付ける。聞き慣れない名称だが、これは今で言うリヤステップのこと。本モデルでは実車に準じたパーツ名称を使用しているので、あえて往時の名称としている。また、フロントフォーク左右のビス穴をふさぐ作業も行う。

今号のパーツ



- ①ピリオンステップブラケット×1
- ②ピリオンステップ×1
- ③ピリオンステップピン×1
- ④ピリオンステップラバー×1
- ⑤ビス穴カバー(左)×1
- ⑥ビス穴カバー(右)×1
- ⑦ビス(Pタイプ)×2
(※1本は予備)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

用意するもの

・メインフレーム(73号で組み立てたもの)

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ラジオペンチ
- ・マスキングテープ
- ・ピンセット

あると便利な道具

- ・多用途接着剤(「セメダイン スーパーX-G」推奨)



⑤ビス穴カバー(左)と⑥ビス穴カバー(右)を用意し、それぞれを裏返して並べてみよう。写真で示した部分に“切り欠き”があり、左右を示す刻印(L/R)がある。このパーツは左右を間違えやすいので、必ず裏の刻印を確認してから取り付け作業を行おう。

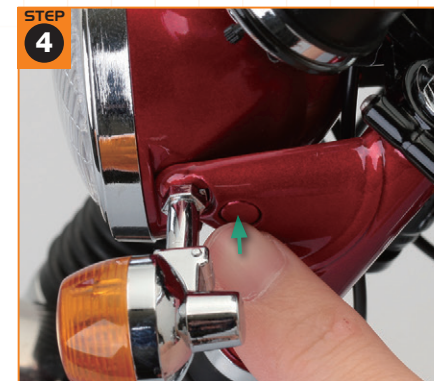
※注意/実際に提供されるパーツは、裏の刻印が浅く見えにくい場合があります。



73号で組み立てたメインフレームを用意し、写真で示した左フロントウインカーの後ろをチェックしよう。ヘッドライトを固定しているビス穴があり、その縁には出っ張った部分がある。ここにビス穴カバー(左)をはめ込むことになる。



ピンセットを使い、ビス穴カバー(左)を写真で示したフロントフォークのビス穴にセットする。このとき、ビス穴カバー裏面の“切り欠き”の位置と、ビス穴の縁の出っ張った部分を合わせておく。



ビス穴カバーをはめ込んだら、指先でしっかりと押し込んで取り付ける。もし外れやすい場合は、ビス穴の縁に多用途接着剤をごく少量塗布してから、ビス穴カバーをはめ込むようにする。



右フロントウインカーの後ろのビス穴には、ビス穴カバー(右)を取り付ける。②～④と同じ要領で取り付けよう。



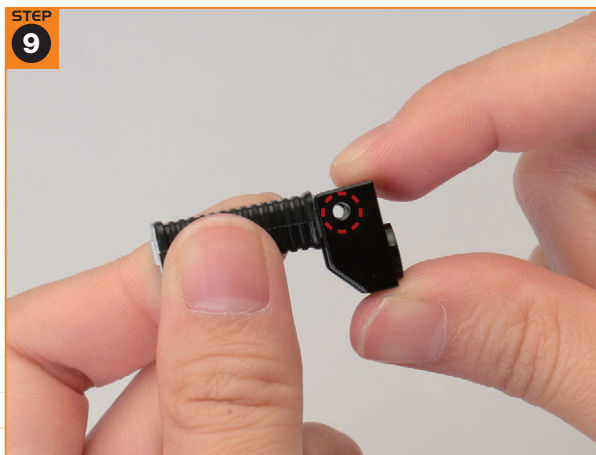
②ピリオンステップと④ピリオンステップラバーを用意し、取り付け部分の形状を確認する。ピリオンステップの軸部分は断面がD字状になっており、ピリオンステップラバーの穴は、それが差し込まれる形状になっている。



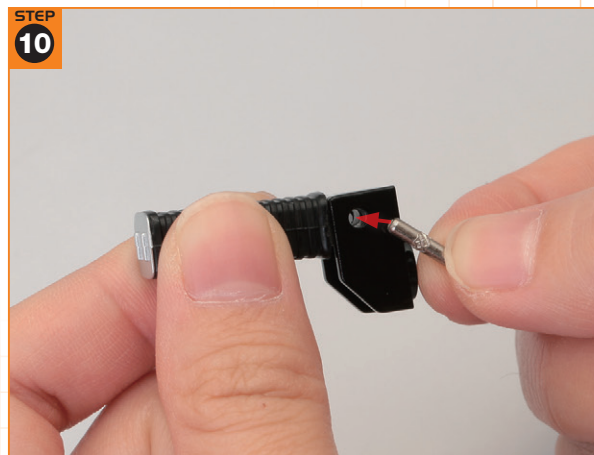
ピリオンステップの軸部分をピリオンステップラバーの穴へ差し込み、そのまま真すぐに押し込む。



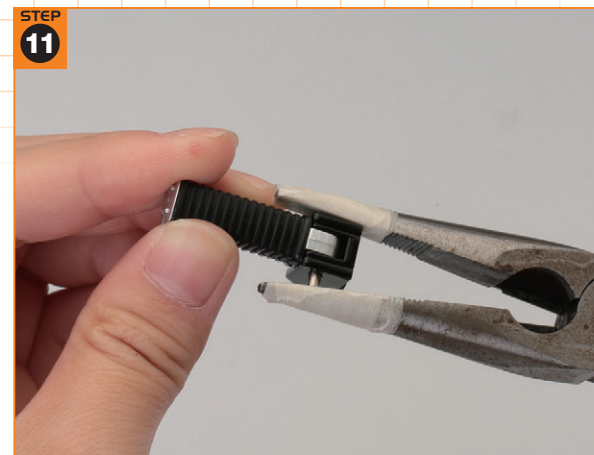
①ピリオンステップブラケットを用意し、⑦で組み立てたピリオンステップを写真の向きでセットする。向きを間違えると可動方向が逆になってしまうので注意しよう。



ピリオンステップブラケット側面の穴と、差し込んだピリオンステップの穴の位置を合わせる。

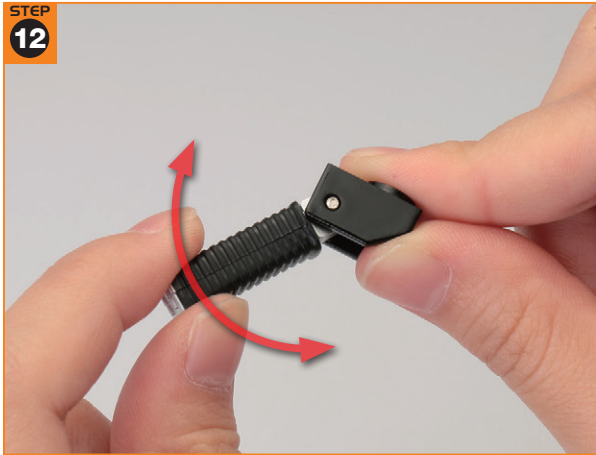


③ピリオンステップピンを用意し、ピリオンステップブラケットの穴にセットする。ピンをセットする向きはどちらでも構わない。また、穴は貫通しているので、どちらから差し込んでも問題はない。



先端にマスキングテープを巻き付けたラジオペンチを使い、差し込んだピリオンステップピンを奥まで押し込む。このとき、ピンが傾いていると貫通できず、奥まで押し込めないので注意しよう。

STEP
12



ペリオンステップをブラケットに取り付けたら、写真のように可動することを確認する。

STEP
13



メインフレームの左側面に伸びたマフラーに設けられた取り付け部と、ペリオンステップブラケット裏側の形状を確認し、位置を合わせてセットする。

STEP
14



⑦ビス(Pタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。このとき、ペリオンステップは写真のように収納状態(上に向ける)にしておくこと。

STEP
15



1番の+(プラス)ドライバーを使い、Pタイプのビスをねじ込んで、ブラケットを取り付け部に固定する。

STEP
16



取り付けたペリオンステップが、スムーズに動くか確認しよう。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。モデルの左側面後方にペリオンステップが取り付けられ、モデルのリアリティーはさらに高められた。完成まであと一息なので、取り付けしたパーツを破損しないよう大切に保管しておこう。

× タイヤが白化した場合の対処方法 ×

組み立ててから相応の時間が経過した前後タイヤは、パーツの保管状況などによって白っぽくなってしまう場合がある。これは「白化現象」と呼ばれるものだが、比較的簡単に元の状態へと戻すことができる方法があるので紹介しよう。

用意するもの

- ・シリコン系オイルスプレー(KURE CRC 5-56・無香性を推奨)
- ・古新聞紙
- ・クロスレンチ(9号で提供したもの)
- ・グリス(6号で提供したもの。残っていない場合は、市販のグリスで代用可)
- ・ブラシ(使い古しの歯ブラシなど)
- ・ペーパータオル(毛羽立たないもの)



潤滑剤として知られるCRC5-56には、プラスチックやゴムを侵さない「無香性タイプ」が用意されている。ホームセンターなどで入手可能だ。



フロントタイヤの場合、ホイールシャフトを抜けば簡単にフロントタイヤを外すことができる。ホイールシャフトはクロスレンチを使って抜く。



ホイールからタイヤを外す。なお、リアタイヤの場合は取り外す手間がかかるので、メインスタンドでモデルを立て、浮かせた後輪の「タイヤ部分」にのみ、(3)を省いて(4)～(7)の処理を施す。



タイヤをひねるようにして全体をよく揉み、表面に浮いた白い粉を使い古しの歯ブラシで払い落としておく。



広げた古新聞紙の上にタイヤを置き、シリコン系オイルスプレーを全体にたっぷり吹き付け、タイヤを白化させている結晶を洗浄する。



ペーパータオルを使い、すぐにオイルスプレーを拭き取る。オイルスプレーで濡れたまま放置すると、タイヤを劣化させる場合があるので注意しよう。



6号で提供したグリスをタイヤ表面に薄く塗布する。グリスを使い切っている場合は、模型店やホームセンターで市販されているグリス(※鉱物油系)でも大丈夫だ。



ペーパータオルを使い、塗布したグリスをタイヤの表面全体にすり込む。これで当分はタイヤの白化を防止することができる。